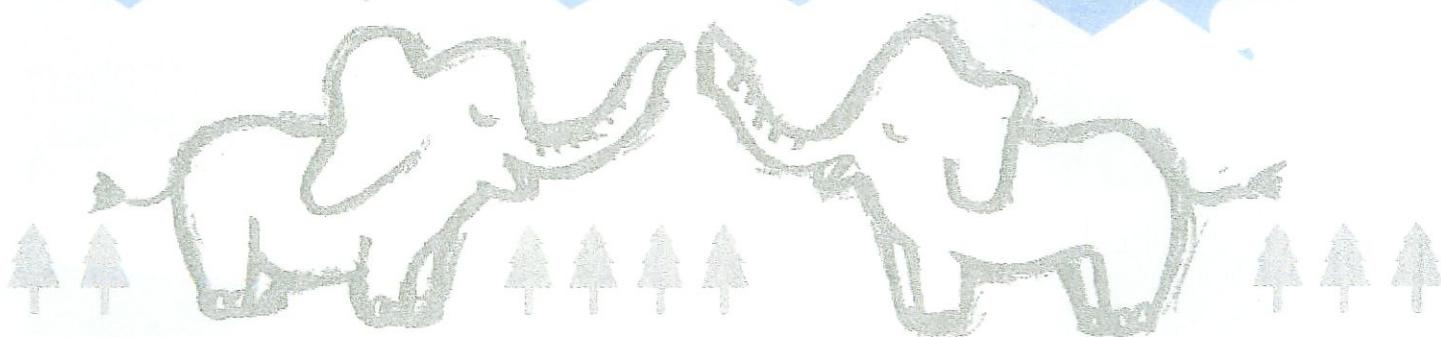


終戦60年企画

象列車がやってきた



「象列車」、それは戦争でうちひしがれた日本の子供たちの心にともした、希望の光であった！

太平洋戦争をへて、当時日本の動物園にいた多くの動物たちが、銃殺、餓死させられた。しかし名古屋市の東山動物園の2頭の象だけは、当時園長以下関係者の努力で奇跡的に生き延びる。

この出来事は、戦後子供たちを始め、多くの人々に生きる希望を与え、ついには象を見るための列車「象列車」を走らせるに至った。しかしこの裏には、象の命を守るために、体を張った人々たちの努力と葛藤、それを支えた家族の愛のドラマがあった。

＜放送予定＞平成17年8月12日(金)

総合 午後7時30分～8時44分

＜原 作＞小出隆司「ぞうれっしゃがやってきた」

＜脚 本＞矢島正雄

＜音 楽＞渡辺俊幸

＜出演者＞三浦友和 池脇千鶴 山本太郎 余 貴美子

杉本哲太 八千草薫 田中邦衛



やじま まさお
脚本 矢島正雄



大人が、子供たちに夢を託した時代があった。ひどい時代だった。だからこそ大人は大人になろうとしたのかも知れない。あなたは象を見たことがありますか？いつ見ましたか？誰と一緒にいましたか？日本にはじめて象が来たのは江戸時代、子供を驚かせたい、夢を見せてやりたい時、日本の人たちはいつも象を呼んでいた。これは、たった60年前のやはり象の話です。大人たちが一番苦しい時でした。象に命をかけて戦った大人たちの話です。子供に、夢を見せてあげたい、それだけで大人は死ぬことが出来るのです。戦争なんかしなくとも…

こいで たかし
原作 小出隆司

(プロフィール)

1938年生まれ。名古屋市出身。61年から名古屋市の小学校で教鞭をとる。在職中に戦後、東山動物園に生き残った象の存在を知り、子供たちへの副読本として「ぞうれっしゃがやってきた」を執筆。その後評判が広がり、舞台やアニメーションなどになり全国に広まる。現在は『ぞうれっしゃの家』を主宰するなど、この象の物語を語り続けていく活動を精力的に行っている。愛知県歴史教育者協議会委員長、日本歴史学協会会員。

わたなべ としゆき
音楽 渡辺俊幸



(プロフィール)

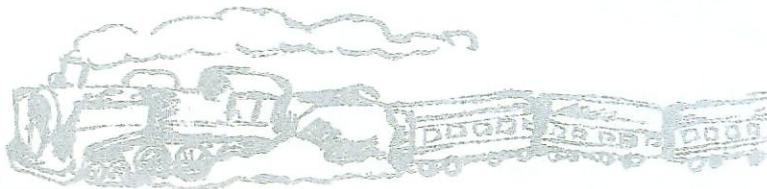
1955年生まれ。名古屋市出身。大学入学と同時に、フォークグループ「赤い鳥」のドラマーとしてプロ活動に入る。1979年渡米後、バークリー音楽院、ボストンコンサートバトリーにて、作編曲技法、指揮法を学び、アルバート・ハリス氏に師事してハリウッドスタイルの作曲技法を身につける。帰国後、数々の映画、テレビドラマ、アニメーションの音楽を担当、最近では「優しい時間」「大岡越前」、またNHKでは「ハルとナツ」が今年秋に放送が予定されている。

制作にあたって いえき まさお
チーフ・プロデューサー 家喜正男

このドラマは、小出隆司さんの原作をもとに矢島正雄さんの脚本で、この時代に生きる人々と子供たちの平和を希望する人間愛を見事なまでに描かれています。終戦を目前にした当時、日本では、大都市を始め米軍の空襲が盛んになっていました。当時日本の動物園では、多くの動物たちの逃走によって人々に危害を加えることを恐れ銃殺、餓死を余儀なくされていたのでした。そんな異常な世の中で純粋に動物を愛し人間を愛し生きる喜びを分かち合う人々を描いています。今回このドラマにご出演頂いた三浦友和さん、池脇千鶴さんをはじめ八千草薫さん、田中邦衛さん・・・と大ベテランの見事な演技に注目して頂きたいと思います。名古屋の東山動物園を舞台にした、NHKスペシャル・ドラマ「象列車がやってきた」では戦中戦後の日本を描くと同時に名古屋東山動物園の「象」を通して生きる喜びを描いていきます。そして、日本人にとっての8月15日とは一体何か・・・。この大きな課題も含めて考えていただければ幸いかと思います。そして、是非多くの皆さんに御覧いただけるように願っております。

演出にあたって よしなが あかし
ディレクター 吉永 証

僕は戦後生まれで戦争の体験がありません。そこで、まず戦争当時の様子を知っている方々へ原作者の小出さん、東山動物園の関係者、モデルとなつた北王園長・飼育員の浅井さん・三井大尉のご家族の皆さんにお会いしました。取材の中で痛切に感じたのは「逆境でもあきらめないことの大切さ」です。結果として東山動物園に2頭の象が生き残ったのは、単に幸運が重なったからではなく、たくさんの方が命をかけて行動したからなんです。未来を担う子どもたちの笑顔は、大人が体を張ってでも行動を起こす勇気を持つかどうかにかかっています。取材でいただいた『勇気と愛』を込めて皆さんに作品をお届けします





とおやま かおる みうら ともかず
遠山 薫 三浦友和

東山動物園長。東山動物園を西欧の動物園に負けないものにしようとの理想に燃えている。誰にでも穏やかに接する人柄であるが、芯はしっかりしており、象などの圧力を一人で黙って押しとどめる信念の人。また外には見せないが誰よりも、動物に対する愛情を持っている。



ともべ いけわき ちづる
友部ユリ 池脇千鶴

世話をしていたヒョウに殺された飼育員の娘で、幼い頃に遠山家の養女になる。そのため動物に恐怖心を持っていたが、遠山が連れてきた象にいやされ、愛情を抱くようになる。飼育員の新之介とは、最初は反発し合っているが、互いに意識し合う仲に。



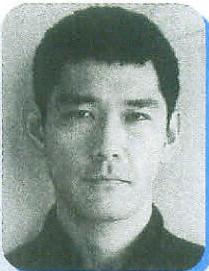
おくだ しんのすけ やまもと たろう
奥田新之介 山本太郎

戦争がはじまり、動物園の人手不足で途中採用された飼育員。徴兵検査で丙種合格（最低に近いランク）になり、自分は役立たずの人間なのではないかとのコンプレックスを持つが、その閉ざされた心を、ユリと象に開かされる。



とおやま その よ きみこ
遠山園 余貴美子

遠山園長の妻。理想の動物園を作るため奮闘する夫をささえている。明るい性格で、遠山家のムードメーカー。実の子ではないユリを、実子の二人と分け隔てなく育てている。



ごきた たいい すぎもと てつた
五木田大尉 杉本哲太

陸軍の獣医部の大尉。一見強面で、寡黙、典型的な帝国軍人のように思われるが、実は動物を愛する優しい心も持つ。



ともべ やちぐさ かおる
友部ユリ(現代) 八千草薰

このドラマの語り部。戦中、戦後にかけて象を、そして動物園を命がけで守り通した。毎夏、8月15日が近づくと、思い出の地・東山動物園にやってくる。



むつだ ぜんそう たなか くにえ
六田善造 田中邦衛

東山動物園のベテラン飼育員。遠山園長のたっての頼みで象の担当となる。頑固一徹、職人肌の飼育員で、なれない象を瞬く間に調教し、周囲を驚かせる。

ストーリー

現代の東山動物園にたたずむ、一人の女性・友部ユリ（八千草薫）。今となっては戦争の傷跡など微塵も残っていないきれいな動物園。子供たちの楽しそうな声がこだまする象の檻の前で、彼女が語り始めた物語とは――

昭和12年、名古屋市の東山動物園に象がやってくる。園長の遠山（三浦友和）が、動物園の目玉にと呼び寄せたのだ。象は、たちまち子供たちを始め、多くの人の人気者になる。遠山の養女で、ヒョウに殺された飼育員の娘・ユリも、動物に対して恐怖心を抱いていたが、瞬く間にその魅力の虜になった。

そして昭和16年。太平洋戦争が始まり、急激に軍事色が強まった日本では、戦意高揚のスローガンが街のあちこちで叫ばれていた。それは東山動物園も例外ではなく、象による戦意高揚ショーがひんぱんに行われ、女学生となったユリ（池脇千鶴）も裏方として手伝っていた。しかし日に日に、軍などからの要求は厳しくなり、遠山は園長として人知れずその対応に苦慮する。

戦争が長引くにつれ、多くの飼育員が兵隊にとられて、その補充で、奥田新之介（山本太郎）という若者がやってきた。彼は、喘息のため徴兵検査を丙種合格という、いわば最低のランクをつけられたことから、自分は不必要な人間であると思っていたが、ユリや、象たちとふれあうに従って、そのコンプレックスは解消されていった。

いよいよ、戦争は日本の敗色が濃くなり、アメリカ軍の本土空襲を察知した軍は、どう猛な動物の処分を求める。しかし遠山は処分を受け入れなかった。いらだつ軍は上野動物園での動物処分をひきあいについてに警防団を動物園に差し向けて実力行使に出た。善造（田中邦衛）を始め、飼育員たちは反発するが、いかんともしがたく、遠山は処分を許可する。しかし、自分たちを慕ってくれた動物たちが見せた“裏切られた”という、末期の顔にショックを受けた遠山は、もう決して命を奪わないと心に誓うのだった。

必死で動物園を守ろうとする遠山に、軍や市からの圧力が強まる。そこに新之介に召集令状が届く。新之介と心を許し合う仲になっていたユリは、新之介の招集を、軍の命に抵抗する遠山への無言の警告とする。そしてすべては父の意固地のせいだと怒り、思わず「動物の命と人間の命のどちらが大事」と突きつける。苦悩する遠山であったが、象を守る強い決意をユリに告げる。一方新之介も、遠山園長の思いをくみ取り、ユリに象を託し戦地に赴く。

それからが苦労の連続であった。相次ぐ空襲、食料難、軍の駐留。象はみるみるやせていった。その上象に射殺命令が出る。これに抗議した園長は兵隊たちに暴行を加えられ、重傷を負ってしまった。追いつめられたユリと善造は、軍の飼料を盗むことを決意する。その姿を、大尉となった軍の獣医・五木田（杉本哲太）に見とがめられるが、事情を察した五木田はユリたちの行動を見過ごす。このおかげで、何とか象たちの飢えをしのぐことができた。

そして、敗戦。廃墟に呆然と立ちつくした人々は、東山動物園に象が生きていることを知り、驚喜する。そして全国の子供を象にあわせるために、象列車を走らせるのだった。象を見て喜ぶ子供たち。その輪のなかに、復員してきた新之介の姿があった――

現代の東山動物園。また今年の夏もユリは、象と子供たちに会いにやってきた。